

地域振興助成

2021 年度採択事業 活動紹介

瀬戸内海地域振興助成

1. 塩屋布団太鼓の次代を担う乗りの育成と継承

塩屋青年会

代表者名：岸部 克俊

神戸市垂水区塩屋地域は南部が旧住宅地、北部が新興住宅地の二つの面を持つ地域で、地域間の人的交流が課題となっている。地域の伝統芸能である布団太鼓は、一度廃絶となったが 2008 年に約 50 年ぶりに復活。以降、塩屋布団太鼓巡業は年々多くの方が参加し、老若男女が集う世代交流の場となっている。コミュニティの発展に寄与し、地域間の相互交流を図るため、子ども達への祭継承の活動を行っている。

WEB：<https://www.facebook.com/播州垂水の布団太鼓-833076666715224/>



2. さざなみダイアログプロジェクト

一般社団法人ひばりエンタテインメント

代表者名：鍵屋 翔子

岡山県瀬戸内市にある長島愛生園は 1930 年にハンセン病患者の隔離施設として開園した日本初の国立療養所である。かつては 2,000 人いた入所者は 134 名、平均年齢 86 歳となり、入所者自身による「語り部活動」の存続が近い将来困難になる。「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」はハンセン病の症状の一つの視覚障害を暗闇の中で体験するコンテンツで、歴史から人権や差別を考える場として、新しい視点を用いて来園者の増進と歴史の継承を図っていく

WEB：<https://sazanami-house.info/>



3. 昔から受け継がれてきた下津井の魚食文化の掘り起こし、下津井の素材を使った創作料理のメニュー開発をして、町の観光資源に生かそう！

下津井 sea village project

代表者名：牧 信男

岡山県倉敷市下津井地区は、この地特有の豊かな漁場に恵まれ固有の食文化を有してきた歴史がある。しかし水産業の衰退や核家族や一人世帯の増加に伴い、この地独自の伝統行事や魚食文化が途絶えてしまう危機にある。そこで、文化の継承と地元食材の地産地消、ブランド化を目指し、魚食文化の掘り起こし、創作料理の奨励を行い、観光資源として活用していくために、書籍化及びSMS 発信を図り、下津井の魚食文化を顕在化させていく。

WEB：<https://shimotsui-sv.com/>



4. 空き家と耕作放棄地の利活用を通じた地域づくり

くにとうの御船を守る会

代表者名：笠原 宏之

岡山県浅口市寄島町国頭地区では急速な人口減少等により空き家と耕作放棄地の増加が地域課題となっている。そこで、空き家を「集いの場」として利活用し、景観保存と地域の拠点づくりを行い、里山保全活動並びに耕作放棄をアジサイ園等の形で再生するプロジェクトを実行。民間の事業者とも連携を図ることで多面的にまちづくりを推進していく。



5. 豊島 島キッチンお弁当・お惣菜配達事業

特定非営利活動法人瀬戸内こえびネットワーク

代表者名：北川 フラム

豊島（香川県）は人口減少や高齢化に加え産廃事件の影響もあり、島内に課題は多い。コミュニティの分断や弱体化は伝統文化や食文化の継承を困難にさせる。弊団体では瀬戸芸の理念のもと、島キッチンを中心に島のお誕生会や島キッチン新聞、そして本事業を連動させ島内の緩やかなつながりを創出する活動を行っている。また、本事業を通じて島のお母さんたちが受け継ぐ郷土料理をアーカイブし、そのプラットフォームとなることを目指す。



6. 讃岐六条の水車復元と保存活用

高原水車友の会

代表者名：平田 恵美

江戸時代末期に作られた水車が四国で唯一高松市六条町に現存している。地形や自然環境と共存してきた讃岐の文化・技術・産業を伝えていくために、水車の再稼働への整備を進め、水車による粉引き等、当時の仕組みの復元を進めている。また、道具の展示やワークショップの実施による憩いの場づくりの活動に取り組んでいる。



7. ことひき 琴弾公園の魅力高める活動

いいまちづくり観音寺輝き隊

代表者名：大西 やえ子

香川県観音寺市の琴弾公園は明治 30 年に県立公園として開設した後、昭和 11 年に名勝指定、昭和 31 年瀬戸内海国立公園に編入と、古くより評価されてきた。近年、観音寺市が夜型観光を推進する一方で、公園は樹木の剪定や観光地としての整備がなされていないという課題がある。公園を整備することで、琴弾公園本来の歴史的景観を取り戻し、夜の市内が一望できる新名所として観音寺市の夜の魅力を引き出していくことを目指している。



8. 鞆の浦の大正期を代表する吉本家住宅の保存・活用プロジェクト

特定非営利活動法人鞆まちづくり工房

代表者名：松居 秀子

鞆の浦（広島県福山市）には贅をつくした大商人の家々が立ち並ぶが、地域の高齢化が進み、重要伝統的建造物群保存地区外（以下、「保存地区」と称する。）では空き家の取り壊しも進んでいる。吉本家住宅は大正期を代表する商人住宅だが、保存地区から外れており保全活動が行われていない。今回、登録文化財制度を活用し、地域へ賑わいをもたらす利活用を実現するための活動を行っていく。あわせて組織持続を図るべく、後継者育成にも積極的に取り組む。



9. 小林和作旧居再起動計画

尾道空き家再生プロジェクト

代表者名：豊田 雅子

広島県尾道市の名誉市民である小林和作のアトリエ兼住居は、和風住宅の逸品として、建築的・文化的にも重要な建築である。建物を修復し継承していただくだけではなく、小林和作の人物像や尾道市の文化を学ぶ場として活用していく。ワークショップには、地元住民や学生の参加を募り、和作邸への理解や愛着が深まる機会を創出。建物の魅力の発信、持続的な経営等を行い、次世代へ繋ぐことを目指している。

WEB：<http://www.onomichisaisei.com/index.php>



10. MAKE! REMAKE! ミハラダルマ

パンパカンパニ

代表者名：宮本 郁・水呉 成美

広島県三原市ではだるまの伝統的なお祭り「神明市」が毎年2月に開催され、だるまは町の顔として親しまれている一方で、様々な特徴を持つ「三原だるま」自体の認知は低く、職人も高齢化が進み、文化の存続が危ぶまれている。事業を通じて「三原だるま」の認知拡大や存続を図ることで、地域の活気や賑わい創出へ繋げ、市民が誇る三原市のアイデンティティとなることを目指していく。



11. レモンチェッロ酒造でつなぐウィズコロナ時代の観光構築

株式会社瀬戸内ジャムズガーデン

代表者名：松嶋 匡史

周防大島は温暖な気候を生かして山口県内の柑橘の8割を生産。また交通の便の良さから観光産業も活発だが、社会的情勢の変化を経て、観光の在り方を捉え直し「レモンチェッロ」の商品開発をスタート。レモンの植栽や製造の過程から参加する長期的なプロジェクトで関係人口づくりを行い、数年後に皆で乾杯を目指す。さらに宿泊や食品加工事業者等と連携し地域へ展開することで、100年続く地域産業づくりを目標に活動している。

WEB：<https://www.jams-garden.com/>

